

《夏の家 冬の家》計画

# 報告書

2022年6月27日より現時点迄

村上 慧

## 《夏の家 冬の家》計画の概要と、土地探しの現状

作成者:村上 慧

2022年6月27日



(図1)

### 《夏の家 冬の家》計画とは

#### 「夏の家」について

2021年7月、村上は真夏の名古屋にて《広告看板の家 名古屋》というプロジェクト(※1)を敢行した。そのなかで村上は、夏の暑さ対策として、水の気化熱を使った自作の冷房の制作を試みた。家の外壁をテラコッタ・タイルで作り、そこに雨水を誘導してタイルにしみこませ、その水分が気化する際に熱を奪い、タイルそのものを冷やす。その効果を用いて室内の気温を下げるというものである(図2,3,4)。

(※1)名古屋で活動している4名の建築家(矢田義典氏、佐々木敏彦氏、道家洋氏、南川祐輝氏)の協力のもとで集めたスポンサー18組から一口五万円の広告料をもらい、そのお金で、人が一人なかで寝泊まりできる程度の大きさの「家」(図1左)をつくり、3週間ほどそこで生活するというプロジェクトである。家の外壁にはスポンサーのロゴが印刷されており、期間中に私が着用する服、バッグ、靴、銭湯で使うタオルや歯ブラシケースなどにもロゴを掲示していた。このプロジェクトは「広告看板に住んでしまえばお金をもらいながら生活ができる」という思いつきから発展したものであった。詳細は村上のウェブサイト内の「広告看板の家 名古屋」ページを参照のこと。

《夏の家 冬の家》計画に関する報告書 No.1

作成者:村上 慧

2022年6月27日



(図2)水が外壁にしみていく様子



(図3←)室内のようす  
(図4↓)スポンサー一覧

協賛

 矢田義典建築設計事務所 NO DETAIL IS SMALL	大久手計画工房 佐々木敏彦	道家洋建築設計事務所	(株)南川祐輝建築事務所
 植村産業株式会社	 グラストップ株式会社	不動産事務所 大削	CHANNEL ORIGINAL  MORI YU GALLERY
夕書房 SEKI SHOBO	 箱屋 kibako	 文房具 朝倉会	 わざもん 茶屋
		井上 悠紀	棟田 響
		川村 庸子	技術協力 池上 靖幸 (株式会社イケガミ)

この試みはそれなりに成功し、真夏の夜でもなんとか眠れる程度の冷房をつくることはできた。しかし期間が三週間と短かったこともあり、自然冷房は完璧とは言えず、夜はまだしも灼熱の昼間に室内で過ごすにはまだ工夫が足りなかった。そこで、このときは《広告看板の家》の副次的な試みだった「自然冷房の制作」にフォーカスした家を、国内のどこかに土地を購入して制作することとした。これが「夏の家計画」である。

### 「冬の家」について

2022年1月、村上は真冬の札幌にて《広告看板の家 札幌》プロジェクト(※2)を敢行した。このなかで村上は、冬の寒さ対策として、落ち葉の発酵熱を用いた自作の暖房の制作を試みた。事前に集めておいた、軽トラックの荷台いっぱいの落ち葉を木枠に入れ、米ぬか、鶏ふんなどをまぜ、水を加えて攪拌し、落ち葉を発酵させる。そのさいに出る熱を取り出し、暖房として使うものである(図5,6,7)。

(※2)ももとは「札幌国際芸術祭 2020」にて発表する予定の作品だったが、新型コロナウイルスの影響で芸術祭が中止となってしまった。なので村上は札幌のアート・ギャラリー「CAI03」の協力のもとで、独立したプロジェクトとして敢行した。名古屋のスポンサーに加え、新たに二口の広告収入を得て、CAI03の屋外テラスに農業用ビニールを用いて、5畳程度の「家」(図1右)をつくり、4週間ほど生活した。外壁には名古屋と同様に、スポンサーのロゴが印刷されている。詳細は村上のウェブサイト内の「広告看板の家 札幌」ページを参照のこと。



(図5)発酵に成功し、木枠の蓋を開けたとたんに室内が湯気でいっぱいになったときのような様子。発酵槽内の温度は61.6度を記録。

《夏の家 冬の家》計画に関する報告書 No.1

作成者:村上 慧

2022年6月27日



(図6←)室内のようす。オレンジ色のマットの下に発酵槽がある。

(図7↓)スポンサー一覧



この試みも成功し、布団の中は一時、低温やけどを心配するほど熱くなった。しかし一度仕込んだ発酵槽は、週に1度くらいの頻度で攪拌しなければ温度が下がっていく。その作業がたいへんに面倒なので、攪拌装置を組み込んだ発酵槽を作るべきだと考えたが、名古屋同様、4週間という期間では不可能であった。また村上はここで、自分のからだか、落ち葉についている土着菌たちと「発熱」という点において一体化しているイメージを得た。このイメージをもっと膨らませ、世界を自分のからだとして捉える目を養いたいと思った。それらを実現するために、「自然暖房の制作」にフォーカスした家を、国内のどこかに土地を購入して制作することとした。これが「冬の家計画」である。

## 《夏の家 冬の家》計画の土地探し

上述した「夏の家」と「冬の家」を制作するための土地を探している、というのが現状である。予算は50万円。家をつくるだけでなく、「冬の家」の制作過程で発生する落ち葉はやがて堆肥になるので、敷地内に畑もこさえたい。できれば100平米以上は欲しい。土地探しは主に不動産仲介サイト「アットホーム」を見てめぼしい物件をリストアップし、現地を下見に行く、という流れで行っている。以下にこれまでの土地探しの顛末を書いていく。

### 1: 京都、滋賀案

5月10日

・弾丸夜行バスツアーで京都と滋賀の土地を見てきた。期待していた亀岡の土地はだめだった。まったく使えない。道が狭いし、道路との段差が大きすぎる。敷地も林みたいにぼーぼー。

その後大津の不動産屋「石山ハウス」へ。

家みたいな事務所だった。外からは店だとは思えない。ノックに勇気が必要だったが、入ってみるとめちゃくちゃ良い感じのおじさん二人が対応してくれた。

高島市に、62万円の良さげな物件があり、地図をもらう。50平米くらい。

「水道引くのが大変なんです。何十万かかかる。博打打つなら、何メートルか掘れば水出てくるかもしれけどね」とおじさん。固定資産税は8000円くらいだという。

「アフターホーム」という不動産屋にも行った。

大物というところに、140万円のところ80万円まで値下げできるという物件あり。こちらも50平米くらい。割と住宅地の中にあつたので良い感じだった。竹藪が気になるが。

(あとから気がついたことだがアフターホームの事務所、女性が一人だったと思う。僕は男性なので、怖がらせていなかったか。緊張させていなかったか。そのときに意識的に振る舞えればよかったが。あとになって自覚した。)

他にもたくさん見て回ったが、どれもほとんど森みたいになっていたり、道路との段差があつたり、予算があわなかったりで、いまいち。

それと、名古屋のプロジェクトで知り合った池上さんから、「厚木市七沢というところに広場を所有している」という話をもらう。後日見に行くことに。

-----  
厚木に広場を所有しています。

- ・市街化調整区域
- ・厚木市にスポーツ広場として無償貸与しているので少年サッカー、フィールドゴルフ、ソフトボールの団体が練習に使用している
- ・地元の人が「自分たちのスポーツ広場」と思っている
- ・5800㎡とだだっ広い

等々、多少ややこしいこともあるのですが興味がおありのようでしたらご覧になってみてください。

-----  
・帰りの夜行バスで吐き気に襲われ、焦った。過去最高に焦った…ちょうどドンピシャでサービスイリア休憩。トイレで吐こうとしたが吐けず、うろろしているうちにおさまる。

## 2:厚木案

5月12日

池上さんから教えてもらった、厚木市七沢の土地を見に行ってきた。アトリエから車で一時間程度、高速料金片道千円程度。近い。

5800平米、サッカーゴールのある広場スペースと、フェンスで仕切られた駐車場スペースがある。駐車場スペースには汲み取り式の簡易トイレも。全て池上さんの会社が所有している土地だが、市と契約して無償貸与しているらしい。市街化調整区域だが、広場には木造の古い東家がある。ベンチもあり、「七沢市民スポーツ広場」という表記がある。厳密には違法建築になりそうな物件だが、市民の広場としての公共性を鑑みて、この小屋は黙認されているようだ。

すぐ隣に空き地があり、おなじ敷地内とおぼしき平屋の軒先でグライндаのようなものを使って作業をしているに一ちゃんを発見。

「あの土地で、ちょっとした作品を作ろうとしている美術作家なんです」

と話しかけたら、そのに一ちゃんがこう言った。

「え、本当ですか。僕も美術家なんですよ」

びっくりした。こんな、道端で話しかけた相手が同業者だったことなんて、たぶん人生で初めて。新山光隆さんという画家で、アクリルで抽象画を描いたりしている。名刺をもらった。

新山さん曰く、彼の敷地は週末になると地元の少年サッカーチームやらソフトボールチームやらが使っている。平日は、時々老人が集まってゲートボールをやったりもしているが、そんなに頻繁に使っているわけではなさそう。

僕が、この土地の所有者が知人で、市に無償で貸しているらしいんですよという話をしたら彼は、そうそう、あそこはもともと老人ホーム建てる予定だったらしいんですけど、なんか立ち消えになって、いまはあんな感じですね、と言っていた。

敷地のすぐ近くに、森林組合がやっている「木木館」という素晴らしいお店があった。県産の木材を製材して売っていたり、木工用品もある。「木工品の店」みたいなうお店にありがちな、加工しすぎてつまらなくなった商品ではなく、木材専門のホームセンターのような、色々なバリエーションの商品。写真をたくさん撮った。

Waiwai asian market という、めちゃくちゃ良い感じのアジア料理屋もある。タイラーメンうまい。

5月13日

新山さんに挨拶の手紙を添えて僕の絵本を送った。

5月15日

新山さんからメールでお礼が。僕の活動のことをどこかで見たことがあるらしい。「見覚えがある」とのこと。「うちの畑のわきでやってほしいくらいですが」と書いてくれていて嬉しかった。

5月16日

池上さんの会社へ、七沢の土地について色々聞いてきた。基本的には池上さんの会社の土地なので、市が口をはさむということはないが、調整区域なので、屋根のかかるものをつくることを黙認してもらう必要があり、そのためには企画書を作り、暖房と冷房の実験という側面を強く打ち出す必要がある。例えばバイオマストイレを制作したり（バイオマストイレを公衆トイレとして開放すれば、市としても環境保護教育みたいな観点が生まれ、ありがたいかもしれない）、芝生や樹木の手入れをする「管理人」的な役割も村上が担ったりするのもよい。

また住民から苦情が出たら撤去ということになりかねないので、それを避けるために説明会をひらく、なども。

一見面倒だけど、しかし公共を考えるにはよい場所かもしれない。一人でやるよりも人がおおく関わってきそうだし、面白いことが起こりそうだ。

問題とはすなわち、面白さのタネであるのだから、障害は多いほど面白くなる可能性はある。さいわい、隣の敷地に美術作家がいるという奇跡もある。最悪、撤去して他のところへもっていくという前提で作ってみようということに。そのために、市に向けた企画案を作る。帰宅後池上さんからメール。早速は市に問い合わせてくれたらしい。

-----  
厚木市に相談してみました。

- ・実験施設（と説明してます）が建築と解釈されるかそうでないかがポイント
- ・開発申請が必要かどうかは図面を見て相談に乗る
- ・バイオマストイレは「それが必要不可欠なもので公共工事」となれば許可申請は不要

ということでした。

開発審査課の人も興味を持ってくれたようで、まずは計画の概要を知りたい、とのことでした。

スポーツ推進課からは「開発許可が必要となった場合、今建っているグラウンド内の小屋が違法ということになり、この取り壊し、撤去を避けるためにも開発許可がいない方向で進めてもらえるとうれしい」と言われました。

開発審査課とスポーツ推進課で既に情報交換をしているようです。

バイオマストイレも「暑い中においのこもるトイレを子どもたちが使うことを想像するといいたまれない」という話をしたら少し反応してもらえました。

企画案お待ちしております！  
-----

5月17日

・バイオマストイレ、やったこともないのに軽く「まず最初にトイレを作って」なんて言ったのがアホだった。少し調べただけで、かなり大変なことがわかった。僕一人用ならまだしも、共有トイレとなると…。

やはり、まずは夏の家冬の家をしっかりとってから、トイレに取りかかるべきだ。トイレは独立したもう一つのプロジェクトくらいに扱った方がよい。――

・厚木市向けの企画案をざっくりとまとめ、池上さんに送った。「とても意義のあることを始めようとしている」ふうな書き方をしてしまった…。(※3)



(※3)厚木市に送った企画書の1ページ目(全6ページ)

雨水の気化熱による冷房と、落ち葉の発酵熱による暖房を作る実験の企画案  
-村上慧(アーティスト)

概要

雨水を外壁に浸透させ、その水が蒸発するときに熱を奪っていく気化熱現象を利用した冷房が可能かどうかを実験する小屋、及び、落ち葉に米ぬかや鶏糞等を混ぜて発酵させ、その際に出る熱を利用した暖房が可能かどうかを実験する小屋を制作する。二つの小屋は基礎などは打たず、地面に置くだけという形にする。面積もそれぞれ7.3平米程度に抑える。

このプロジェクトは昨年度、村上が夏の名古屋と冬の札幌で敢行した《広告看板の家》(注1)という作品の中で行った冷房と暖房の実験にフォーカスするものである。

《冬の家》の制作過程で生まれる、落ち葉の肥料を使った畑も作る。またスポーツ広場利用者は自由に使える「コンポストトイレ」も制作する。

ゆくゆくは敷地内で、エコロジカルな物の見方を学ぶ勉強会や体験学習会、お花見会など、人を集めたイベントも行いたい。村上の個人的な実験施設であると同時に、公に開かれた場所にする。

背景と目的

ここ10年あまりの期間に限っても、われわれは東日本大震災、広島市の土砂災害、御嶽山の噴火、熊本地震、その他台風、大雨、豪雪、猛暑など数多くの災害に見舞われてきた。それはほとんどの場合において、電気やガスなどの生活に必要なライフラインの一時的な寸断を引き起こした。

電力やガスに限らず、われわれの生命維持に欠かせない水も食糧も、生活に必要な物資のほとんど全ては、それが消費される現場からは離れた場所で作られている。災害は多くの被害をもたらすが、それは同時に自分たちの日常生活に必要なインフラが、どこのだれによって支えられているのかについて自覚的に考える機会を与えてくれる。

本プロジェクトはそのような時代背景のもと、われわれの生活を自らの手で作りだす、ひとつの練習として行うものである。

(注1:《広告看板の家》について)

6月7日

池上さんから、「残念なお知らせです」というライン。

「開発指導課より連絡があり、『人が中に入れる』構造なので『建築物』とみなされ、よってあの土地には作れない、との見解でした」

やはり「調整区域」の壁は高いらしい。池上さんはスポーツ振興課にも相談してくれるそうだけど。

6月24日

池上さんに進捗を訊ねるも、スポーツ振興課からは連絡なしとのこと。厚木での実施は厳しいかもしれない…。

### 3:千葉案

6月23日

アットホームで見つけた千葉県の敷地の下見へ。千葉というのは不思議な場所だ。土地が広い。ずーっと山と田んぼかと思っていたら、とつぜん住宅街が出現したりする。

・1箇所目、80万円というのがネックだけど、ほどよく住宅地で、でも広々としていてよかった。駅からも15分、近い。それほど草もボーボーではない。コンビニとかがちょっと遠いか。

総武本線の電車、かわいい。

・2箇所目、39.8万円。少し狭い。安いし、コンビニも近いしでかいスーパーも近い。隣の家の距離が近い。ここでやったら窮屈しそう。

・3箇所目、道路との段差が高いので無理か。塀を一部崩してユンボで坂道作ればいけるかもしれないが、現実的ではない。

思いがけず、向かいにある空き地がかなり良い。見晴らしがよくて気持ちが良い。「売地」の看板が立っていたので、表示されていた電話番号にすぐ電話してみたが定休日らしく、連絡とれず。近所にはコンビニも、でかいスーパーも。徒歩10分くらいのところにある。喫茶店もあるっぽい。

・4箇所目。どんづまりすぎてやだ。

・5箇所目。山武市。日向駅から9分。かなり田舎っぽい風景だけど、気持ちが良い。敷地も広いし安いし、いいかも。

・1箇所目の土地の取り扱い不動産「しみず」へ。おぼちゃんが出迎えてくれた。事情を話し、固定資産税がいくらか知りたいと聞いてみたら「社長しかわからんなあ」というので、「社長さんいまいらっしゃらない感じですか？」と聞いたら、「そうなんです。いつもいないんですけど」と言って笑うのでこちらも笑ってしまった。スーパーファミリーな、地元の不動産屋という感じだ。こちらの心の壁を秒で壊してきた。おぼちゃんは社長さんに電話をかけてくれ、僕に受話器を渡してくれた。

社長と10分くらい話した。話がなかなか止まらない人で「隣の家は空き家で、その俵は裏の人の話によるとどうもちょっとあんまり良い感じじゃない」（そんなこと言っているのか？）だの「その土地は雨がひどくても水はきません」だの「八街は都内から畑やったりするにはいいと思いますよ。酒々井アウトレットも、ICも近いし」だの、「土地は、なにか目的がなければ、ただでももらってはいけません」だのと、色々教えてくれた。とりあえず連絡先を書いておいてもらえれば、固定資産税はあとで調べて連絡しますということに。

電話を切った後、面白い社長さんですねと言ったら「そうですね、話がとまらなくて…」とおばちゃんと言う。

・5軒目の取り扱い不動産「ケンハウジング」にも行った。こっちはビジネスライクでさっぱりしてるけど、とても良い感じのおじちゃんが担当だった。5分くらい話して、こちらも固定資産税や、かかりうる固定費などを調べて連絡をくれるということに。

6月24日

さっそくしみず不動産のしみずさんから電話。土地代を65万円に値下げ交渉してくれた。「持ち主は、この土地を平成初期に1100万円を買ったんですよ」という。すごい値下がり具合だ…。費用は以下の通り。  
固定資産税2900円/年。仲介手数料5万円。土地代65万円。登記料5万円くらい。  
八街には調整区域がないという話も聞いた。30日までに買うかどうか返事をするに。

6月27日

ケンハウジングの人から連絡。昨日庭木の剪定中に脚立から落ちてしまい、怪我をしてしまったと。今日役場に行って固定資産税などを調べるつもりだったが、あと一週間ほど待つて欲しいとのこと。

1軒目と5軒目で迷っていたが、しかし、もうこの土地でやればいいのかと思ってる。土地を一度も買ったことがないし今後どうなるかもわからないのに、いきなり65万円を出すというのはちょっと厳しいものがある。その点30万円ならふんぎりがつく。

昔、dot architectsの家成さんが「300万円の家なら、突然震災で壊れたりしても諦めがつくんじゃないか」みたいなことを言っていたけど、ぼくは30万円だな。

#### 4:おまけ

「アットホーム」で土地を探しているとき、東京都杉並区荻窪に奇妙な形の物件を見つけた。間口1.6m×奥行19.5mの、めちゃくちゃ細長い二等辺三角形の土地である。価格は600万円。両隣を住宅に挟まれている場所で、とうぜん家は建てられない。

また同じく荻窪で、間口40cm×奥行14.4mの三角形で、70万円という土地もあった。やばすぎる。大喜利か。いったい幅40センチの土地など、何に使えるというのか。「荻窪駅から徒歩9分！」というキャッチコピーまでついている。どうかしている。土地の値段を機械的に決めていった先の、成れの果てがここにある。

#### おわりに

第一回目の報告は以上である。土地はいまのところ、千葉県山武市の物件が最有力。

もうすぐ7月になってしまう。本当はもう土地を手に入れて、作業を始めていたところだったが「土地を手に入れる」こと自体に馴染みがないので、どうしても時間がかかる。まだちょっとこわいところはある。はたしてぼくが土地なんぞを買っていいのか。

だいたい「土地を買う」ってなんなんだ。最初に「この土地は、オレのもの～」とか言い出した太々しいやつはどこのだいつだとか、言い始めるときがないけど、なにかがぼくに「土地を手に入れ、冷房と暖房を自作せよ。あと畑もやれ」と囁いてくる。ぼくはそれに従うことにする。

次回の報告では、引き続き土地探しの進捗状況および、「夏の家」を実現させるためにいま村上が考えている具体的な方法(材料、施工法など)と、可能であればその実験の経過について書く予定である。

文責:村上慧